

クマエビ以外のくるまえび類 (ウシエビ、クルマエビ等)



高知県にくるまえび類 (属) は5種分布していますが、そのうち、主な漁獲対象となるのは別項で取り上げたクマエビ (あしあか、写真左上)、クルマエビ (写真右上)、ウシエビ (ごうじょう、写真左下) の3種です。また、近縁のヨシエビやトサエビを含むヨシエビの仲間 (きえび、にがえび。写真右下、上: トサエビ、下: ヨシエビ) も大切なえび類資源となっています。

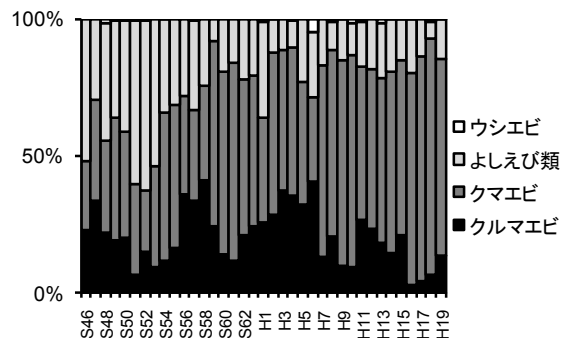


図1 高知市沖小型底びき網で漁獲されたくるまえび類の種組成 (昭和46~平成19年).

生物特性

ここで紹介した種の産卵期は、種により少し違うものの、概ね初夏~夏です。クルマエビ、ウシエビ、ヨシエビ、いずれの種も全長 5cm 以下の稚エビは浦戸湾等の内湾域に出現し、成長とともに分布域を変えます。その後、ウシエビは主に内湾域に留まりますが、クルマエビやヨシエビは内湾~外海域で 10cm 前後から漁獲されるようになります。

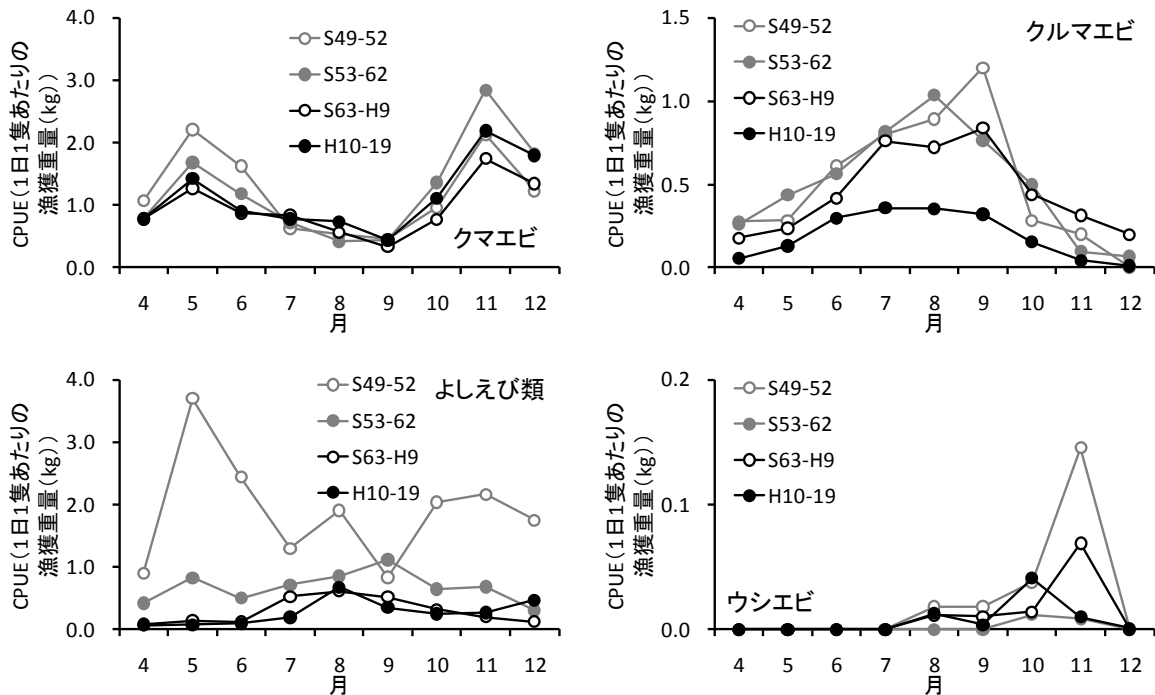


図2 高知市沖小型底びき網で漁獲された大型くるまえび類の1日1隻あたりの月別重量.

県内の漁獲と資源動向

くるまえび類を漁獲する方法は、土佐湾沿岸域の小型底びき網漁業と内湾域の刺網漁業があります。これら2つの漁法は対象種が異なり、浦戸湾や浦ノ内湾といった内湾域の刺網漁業では、よしえび類（ヨシエビ、トサエビ、フトミゾエビ）やウシエビを、小型底びき網漁業はクルマエビ、クマエビ、よしえび類を多く漁獲しています（図1）。また、移動生態や分布域が種ごとに違うため、小型底曳網漁業では漁獲量の増える時期も種で異なります（図2）。

資源動向について、CPUEの推移（図2）は3種とも平成10～19年が最も低いこと、平成20年以降水揚量が増加したという情報がないことから、全て資源状態は低位と考えられます。動向は直近の情報がないことから不明です。